



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3332S		
科目名	危機管理特殊講義 2		
担当教員	寄付講座 エルテス,美濃輪 正行		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木 3		
講義室	1501	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（6 0 %） I 1 理解・分析と読解（4 0 %）		
教員の実務経験	担当教員は、「デジタルリスクと戦い続ける」をミッションとして、社会的課題の解決を目指している企業の社員であります。デジタルトランスフォーメーションが進む社会において、メーカーや金融機関、流通など幅広い業界に対して、デジタルリスク関連サービスを提供しております。アナリスト・コンサルタント等の経験者が、ソーシャルメディアにおけるリスクを始め、情報漏洩などの幅広い分野について、リスクマネジメントとクライシスマネジメントを、実務家の立場から説明し、興味が湧くような講義にする所存です。（全回）		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応： 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	デジタルトランスフォーメーションが進む社会において、企業ブランドセーフティ、コーポレートコミュニケーション、情報漏えい防止や品質管理、コンプライアンスといったテーマについて、発展するテクノロジーの反動として生ずるデジタルリスクが注目されています。デジタル社会が健全に発展し、安心安全に技術やデータを有効活用するという社会的課題の解決が求められています。デジタルリスクの代表例であるソーシャルメディアに関する最新事情や企業のリアルな取り組みについて実践的な方法を学ぶことで、デジタル化の仕組みや機能・役割を理解したうえで、デジタルリスクの基本的な知識や活用方法を幅広く学び、リテラシーの獲得を目指します。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業（Live型）を全1 5回授業のうち7回を上限として取り入れます。オンライン授業を実施する場合は、その前の授業回にて告知します。 （キーワード） SNS、ソーシャルメディア、デジタル、DX、5G、レピュテーション、インターネット、Web3.0、セキュリティ、ネット炎上、SNSマーケティング、生成AI		

授業の趣旨	■副題 ソーシャルメディアと企業経営 ■授業の目的 本講義は、社会的基盤として定着したソーシャルメディアについて、企業経営上の危機管理の観点から理解するのための基本的な知識を習得すること及びそれらの適用事例の考え方について理解することを目的とします。日常的に利用しているソーシャルメディアについて理解を深め、企業の立場から考察することで、デジタル社会における危機管理について学んでいく。本講義は、具体的な事例を取り入れながら、実務家である教員が、初心者にも理解しやすい内容となるよう解説を行います。 ■授業のポイント デジタルトランスフォーメーションという言葉には理科系で難解なイメージが付きまといますが、ソーシャルメディアも代表的なデジタル特性を有するものです。普段から利用しているソーシャルメディアを題材にデジタル化とそのリスクを考えることで、企業経営におけるデジタルリスクマネジメントの思考を習得する。	
総合到達目標	■ 本講義では実務的な観点から次の項目の知識を習得し、基本を理解する。 ・デジタルトランスフォーメーションとは何かを説明できるようになる。 ・ソーシャルメディアとビジネスの結びつき、ソーシャルメディアが企業に与える影響を説明できるようになる。 ・企業によるソーシャルメディアのマネジメントについて説明できるようになる。 ■ これらの知識を活用して、企業のソーシャルメディアに関する危機管理の基礎となる素養を身に付ける。 ・デジタルリスクを想定した対応ができるようになる。 ・具体的な対策を考察することができるようになる。	
成績評価方法	■ 小テスト（５０％）：適用ルーブリック E1・I1 （評価の観点）学習内容に関する出題に解答して、理解度を検証します。 （フィードバックの方法）テスト提出後、直ちに採点します。尚、講義中に解答の解説及び結果を講評します。 ■ リアクションペーパー（５０％）：適用ルーブリック E1・I1 （評価の観点）与えられた課題の実施や学習内容を自ら振り返り記述して提出し、能動的な姿勢を評価します。 （フィードバックの方法）提出された内容について、その後の講義で解説することで双方向の手法とします。提出頻度を出欠情報としてポータルシステムに公開します。	
履修条件	ソーシャルメディアと企業の危機管理について興味があること。前提知識は求めません。	
履修上の注意点	講義中にインターネットを利用する場合がありますので、スマートフォンやタブレット等を持参してください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ デジタルリスク概論 ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目的、講義の構成、スケジュール、評価方法について解説します。教員の実務経験を踏まえて、本講義の導入として社会全体のデジタルトランスフォーメーションが進む点について触れて、デジタルの特性について考察します。また、デジタル化の反動として発生する新たなリスクに対するマネジメントが社会課題となっている点を説明します。受講後は、デジタルトランスフォーメーションの基本的な概念を説明できるようになる。(E1/I1) ③復習（240分） デジタルトランスフォーメーションの意味や事例を一般書籍やインターネットで調べて、どの様なリスクがあり得るか考察すること 参考 https://eltes-solution.jp/column (※授業内容は一部変更になることがあります)
	2	①授業テーマ 企業の危機意識 ②授業概要 テクノロジーの発展に伴い発生してきた、ソーシャルメディア上のレピュテーション、Fintechやシェアリングエコノミーでの不正行為、個人情報のデジタル化に対するサイバー攻撃、秘密情報の漏洩、フェイクニュース、ダークウェブ上での違法取引などの事象は、企業の競争力にも影響を与える重大な事象であります。担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化とそれに伴い生じる様々なリスクについて、企業がどのように向き合っているか解説します。受講後は、企業を取り巻くデジタル環境とデジタル化のリスクについて、説明できるようになる。(E1/I1) ③予習（120分） 総務省 令和5年版 情報通信白書に関する現状報告の概要を閲覧すること ④復習（120分） デジタルトランスフォーメーションが進む社会で、どのようなリスクが生じ得るか考えを整理すること (※授業内容は一部変更になることがあります)

3	①授業テーマ ソーシャルメディアとデジタルリスク ②授業概要 ソーシャルメディアの普及とともに、いつでもだれでも情報発信ができるようになりコミュニケーションは多様化しました。他方でその副作用から情報漏洩や不適切投稿に伴うネット炎上等で被害を受ける事例が後を絶たない状況にあり、危機管理が課題となっています。担当教員の実務経験を踏まえて、代表的なデジタルリスクであるソーシャルメディア上のリスクについて解説します。受講後は、ソーシャルメディアとデジタルリスクの基本的関係を説明できるようになる。なお、第1回および第2回の講義を対象とした小テストを実施し解説をします。(E1/I1) ③予習(120分) 我が国におけるソーシャルメディアの概要について、一般書籍やインターネットで調べること 参考 SNS変遷史「いいね!」でつながる社会のゆくえ 天野 彬 ④復習(120分) 過去のソーシャルメディアでの、いわゆる炎上事例について、インターネットで調べること 参考 https://www3.nhk.or.jp/news/special/enjoyou/ (※授業内容は一部変更になることがあります)
4	①授業テーマ ソーシャルメディアの社会的位置づけ ②授業概要 スマートフォン等のデジタルデバイスの普及と相まって、ソーシャルメディアは、社会の重要なインフラストラクチャーとなっております。担当教員の実務経験を踏まえて、ソーシャルメディアの生成と発達、利用者数やサービス特性、デジタル社会での役割などを説明します。受講後は、ソーシャルメディアがどのようにして社会基盤として定着してきたか理解できるようになる。(E1/I1) ③予習(120分) 我が国における複数のソーシャルメディアについて、サービス開始時期と社会環境の関係を考察すること ④復習(120分) 我が国における複数のソーシャルメディアについて、各サービスモデルの特徴を整理すること (※授業内容は一部変更になることがあります)
5	①授業テーマ ソーシャルメディアの機能的な特性 ②授業概要 ソーシャルメディアは、多くの消費者や企業が利用する社会基盤として定着しています。次世代通信規格「5G」の環境整備も相まって、引き続き活用が見込まれています。担当教員の実務経験を踏まえて、複数のソーシャルメディアを対象に、モデリングやデジタル特性を説明するとともに、ソーシャルメディアの情報拡散メカニズムを解説します。受講後は、ソーシャルメディアのサービスモデルについて、基礎的な素養が身につくようになる。(E1/I1) ③予習(120分) 我が国における複数のソーシャルメディアについて、各サービスの利用者の主な属性について考察すること ④復習(120分) 海外諸国の複数のソーシャルメディアについて、その概要をインターネットで調べること (※授業内容は一部変更になることがあります)
6	①授業テーマ ソーシャルメディアのテクノロジー ②授業概要 ソーシャルメディアから生成されるビッグデータ解析は、機能変更や拡充が日々求められる中で、技術革新が継続的に行われています。担当教員の実務経験を踏まえて、ソーシャルメディアの技術面の解説を行います。ビッグデータの分散技術、自然言語解析、人工知能、画像検知システム等の機能の他に、セキュリティ領域への展開にも配慮して、技術的な側面を解説します。受講後は、ソーシャルメディアが利用するテクノロジーの知識を整理して活用できるようになる。(E1/I1) ③予習(120分) ソーシャルメディアに関連するビッグデータの特性について、一般書籍やインターネットで調べること 参考 知識ゼロからのビッグデータ入門 稲田 修一 ④復習(120分) ソーシャルメディアにおいて採用されている主な技術について、整理をしておくこと (※授業内容は一部変更になることがあります)
7	①授業テーマ ソーシャルメディアに関する法制度 ②授業概要 多くの企業や消費者がソーシャルメディアを積極的に利用しています。個人情報保護や知的財産の保護にも十分な配慮が必要となります。担当教員の実務経験を踏まえて、海外比較の視点も交えつつ、ソーシャルメディアを取巻く法制度について解説します。受講後は、後段で活用可能なソーシャルメディア関連の法制度の基本的な知識を獲得できるようになる。(E1/I1) ③予習(120分) ソーシャルメディアに関連する権利侵害等の判例について一般書籍やインターネットで調べておくこと 参考 企業を守る ネット炎上対応の実務 清水 陽平 ④復習(120分) ソーシャルメディアに関連する権利義務に関する報道について、インターネットで調べておくこと (※授業内容は一部変更になることがあります)

8	①授業テーマ ソーシャルメディアと企業コミュニケーション ②授業概要 企業公式アカウントの運営、マーケティングやプロモーション、採用活動など、企業がソーシャルメディアを事業に活用する重要性が益々高まっています。これに関連して、スマートフォン向けの動画広告などインターネット広告費も市場成長が継続しています。担当教員の実務経験を踏まえて、企業コミュニケーションにおけるソーシャルメディアの活用法について説明します。受講後は、各企業におけるソーシャルメディアの特徴が理解できるようになる。(E1/I1) ③予習(120分) ソーシャルメディアを利用した販売促進活動「ソーシャルメディアマーケティング」について、複数の業界業種の企業を対象にインターネットで調べておくこと ④復習(120分) ソーシャルメディアの企業公式アカウントを、複数の業界業種の企業を対象に、インターネットで調べておくこと (※授業内容は一部変更になることがあります)
9	①授業テーマ ソーシャルメディアについて企業が抱える問題 ②授業概要 消費者行動を把握し、炎上を防止し、適切な情報発信と行うといったソーシャルメディアにおける危機管理は、デジタルトランスフォーメーションが進む社会におけるブランド戦略と密接に関り、ブランドセーフティの考えの高まりともに、経営における重要性が高まっています。担当教員が実務経験を踏まえて、ソーシャルメディアに起因した事象が企業経営に与える影響について解説します。受講後は、ソーシャルメディアが企業経営に与える脅威の影響と対策の重要性について認識が深まる。(E1/I1) ③予習(120分) 企業活動の一般的なリスクについて、インターネットまたは書籍で調べ、リスクマップ等により整理をしておくこと 参考 世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座 勝俣良介 ④復習(120分) 第3回から第9回までの講義資料を再読しておくこと (※授業内容は一部変更になることがあります)
10	①授業テーマ ソーシャルメディアについて企業が抱える問題の分析 要因と課題 ②授業概要 ソーシャルメディアで企業レピュテーションに与える脅威について、発生状況や影響度などの類型別に考察を行います。担当教員の実務経験を踏まえて、業界業種、組織体制についても触れながら、企業活動や企業経営への影響を解説します。受講後は、ソーシャルメディアと企業実務の関係を説明できるようになる。なお、受講生は第3回から第9回の講義を対象とした小テストを受験し、解説を受ける。(E1/I1) ③予習(240分) いわゆるネット炎上事例について、要因と課題をインターネットで調べること (※授業内容は一部変更になることがあります)
11	①授業テーマ ソーシャルメディアについて企業が抱える問題の分析 要因と課題についての事例研究 ②授業概要 第10回に引き続き、担当教員の実務経験を踏まえて、ソーシャルメディアに関連して、企業活動や企業経営に重大な影響を与えた具体的な事例を用いて、その要因と課題について解説を行います。受講後は、ソーシャルメディアに関する問題の要因と課題の主な事由と影響度について、具体的に理解できるようになる。(E1/I1) ③復習(240分) 企業のソーシャルメディアに関するプレスリリースがどのようにされているか、事例をインターネットで調べること (※授業内容は一部変更になることがあります)
12	①授業テーマ ソーシャルメディアについて企業が抱える問題の分析 解決策と防止策 ②授業概要 ソーシャルメディアで企業レピュテーションに与える脅威について、調査手法やガイドライン運用などの施策別に考察を行います。担当教員の実務経験を踏まえて、業界業種、組織体制についても触れながら、企業活動や企業経営への影響を解説します。受講後は、ソーシャルメディアと企業実務の関係を説明できるようになる。(E1/I1) ③予習(240分) いわゆるネット炎上に関する解決策と防止策をインターネットで調べること (※授業内容は一部変更になることがあります)
13	①授業テーマ ソーシャルメディアについて企業が抱える問題の分析 解決策と防止策についての事例研究 ②授業概要 第12回に引き続き、担当教員の実務経験を踏まえて、ソーシャルメディアに関連して企業活動や企業経営に重大な影響を与えた具体的な事例を用いて、その解決策と防止策について解説を行い、受講生の理解を深めます。受講後は、当該問題の解決策と防止策の主な手法と種類について具体的に説明できるようになる。(E1/I1) ③復習(240分) 企業のソーシャルメディアに関するプレスリリースがどのようにされているか、事例をインターネットで調べること (※授業内容は一部変更になることがあります)

	14 ①授業テーマ デジタルリスクのマネジメント ②授業概要 これまでの講義のラップアップとして、デジタル化の反動として発生する新たな事象について、担当教員の実務経験を踏まえて、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの観点から振り返りを行います。受講後は、デジタルトランスフォーメーションを進める際の留意点について説明できるようになる。なお、第10回から第13回の講義を対象とした小テストを実施し、解説を受ける。(E1/I1) ③予習(120分) 第10回から第13回までの講義資料を再読すること ④復習(120分) ソーシャルメディアに関するリスクマネジメントとクライシスマネジメントについて、これまでの学習を整理すること (※授業内容は一部変更になることがあります) 15 ①授業テーマ リスクマネジメントのデジタル化 ②授業概要 デジタルトランスフォーメーションが引き起こすデジタルリスクのみならず、今後は、リスクマネジメント自体がデジタル化してゆくことが見込まれています。担当教員の実務経験を踏まえて、危機管理プロセスのデジタルトランスフォーメーションについて説明します。受講後は、デジタル社会での危機管理の在り方について自分の見解を持つことができるようになる。なお、受講生は第14回及び第15回の講義を対象とした小テストを受験し、解説を受ける。(E1/I1) ③予習(120分) 危機管理のデジタルトランスフォーメーションについて、どのような可能性があるか考察すること ④復習(120分) 危機管理をデジタルトランスフォーメーションするための要件を考察すること (※授業内容は一部変更になることがあります)
関連科目	サイバーセキュリティ論、情報システム論、プライバシーと法、知的財産法制、企業コンプライアンス論、リスクコミュニケーション論、リスクマネジメント論、メディアコミュニケーション論 が関連します。
教科書	特にありません。講義で使用する資料は教員から提供します。
参考書・参考URL	■『ネット炎上の研究』 田中 辰雄・山口 真一 ■『SNS公式アカウント運営者のための企業の信頼失墜を防ぐ 法的リスク・炎上対策』 小山 博章 ■『広報・PRの基本』 山見 博康
連絡先・オフィスアワー	非常勤教員のため、教室において授業前後の時間で対応ならびに学内システム他のWeb上での対応を致します。
研究比率	■ 危機管理四領域との対応 : 情報セキュリティ:100% ■ 危機管理と法学との割合 : 危機管理:90% 法学:10%

